

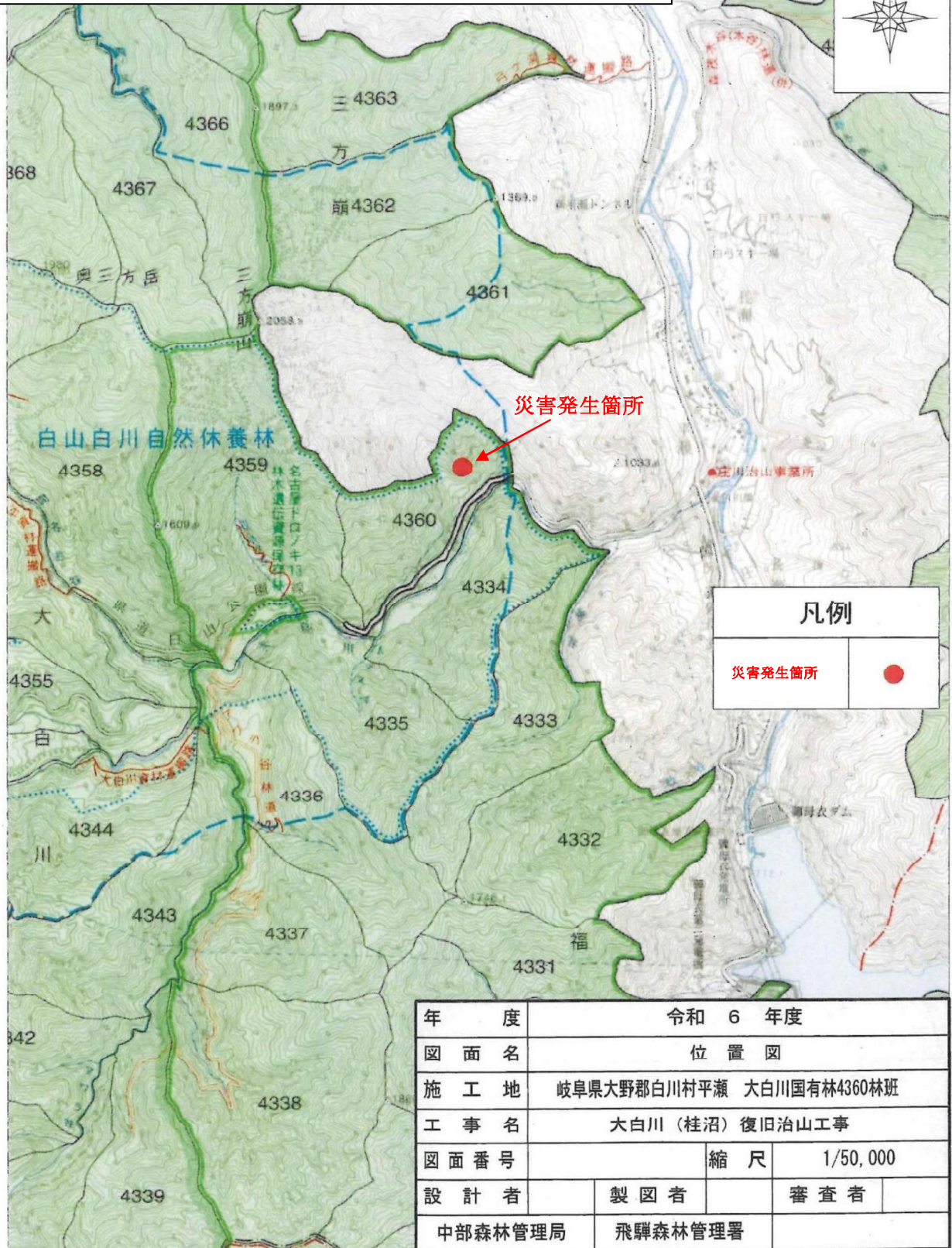
請負事業体及び立木販売における災害発生報告(休業４日以上)

1 署 等 名	飛驒森林管理署
2 事業の種類	大白川（桂沼）復旧治山工事
3 災害発生日時等	令和 6 年 9 月 9 日（月） 1 0 時 0 0 分頃 発生 被災者A 怪我の程度：右足脛骨折 右前腕骨折 休業見込み：不明 被災者B 怪我の程度：両前腕、左膝、前額部、左手、左股関節 挫創 休業見込み：3週間の加療（診断書あり）
4 災害発生場所	岐阜県大野郡白川村 大白川国有林4360林班
5 契約相手方	小坂建設株式会社 代表取締役 小坂 健太郎
6 事業実行事業体	有限会社 中部植生 （3次下請）
7 被災者年齢等	被災者A 年齢：55歳 性別：男 2の事業の経験年数：14年 被災者B 年齢：26歳 性別：男 2の事業の経験年数：3年 雇用区分：常用 社会保険等加入状況： ☒ 労災 ☒ 雇用 ☒ 健康 ☒ 厚生 建退協
8 従事作業	法面清掃作業
9 災害概況	当日、被災者 A・B は、同僚 7 名と作業前の安全ミーティング終了後、モノレールにより現場に移動し、被災者を含む 4 名が法面清掃作業（以下、作業という。）に、2 名が作業指示者、3 名が監視員としてそれぞれの配置に就いた。 午前 9 時頃 作業場所に到着後、被災者 A・B と同僚 C・D は安全带等を装着し作業準備をした。 午前 1 0 時頃 被災者 A・B と同僚 C・D は、作業を開始。被災者 B が浮石を除去しはじめたところ、足元の地山の一部が崩落し、同時に被災者 A の足元の地山も崩れ、被災者 A・B の 2 名が 2 m 程度落下し、安全带のおかげで滑落は防げたものの、上方からの土砂等の崩落に巻き込まれた。この崩落により、被災者 A は腕と足、被災者 B は腕と顔等を被災した。 被災後、被災者 B は、自力で安全な場所まで移動。被災者 A は、斜面上で動けなくなったため、同僚 C・D が被災者 A を斜面から救出した。 午前 1 0 時 4 0 分 被災者 A・B は、同僚 C・D と共にモノレールで下山、それ以外の同僚は順次、車両停車場まで移動した。 午前 1 0 時 5 0 分 現場代理人は救急車を要請することを、被災者に伝えたが、被災者 A・B は、愛知県岡崎市のかかりつけ病院での治療を強く望んだため、同僚 C・D が被災者 A・B を社用車に乗せ、岡崎市に向かった。 午前 1 0 時 5 0 分頃 現場代理人は、会社、飛驒森林管理署、高山労働基準監督署に災害の発生を連絡した。 午後 4 時頃 愛知県岡崎共立病院に到着した。

	午後４時３０分頃 被災者Ｂは同病院で治療を受け帰宅した。 午後４時３０分頃 被災者Ａは、同病院で検査・応急処置を受けた後、外傷とあわせて骨折しているため、専門医のいる藤田医科大学岡崎医療センターに向かった。 午後６時３０分頃 被災者Ａは、同病院に到着し検査と治療を受け入院した。
10 その他特記すべき事項	9月9日 午後２時４０分 労働基準監督署が現地到着、現場検証等実施 (労働基準監督署は口頭で概況がはっきりするまで作業を停止するよう現場代理人に伝えた。) 午後３時００分 高山警察署が現地到着、現場検証等実施 午後４時３０分 労働基準監督署・高山警察署 検証等終了 9月10日 午前９時３０分～ 小坂建設(株)社内安全会議を実施(下請け：丸ス産業(株)、日本植生(株)、(有)中部植生 含む) 午後１時３０分～ 小坂建設(株)と下請け業者３社が、災害概要等を飛騨森林管理署へ説明。

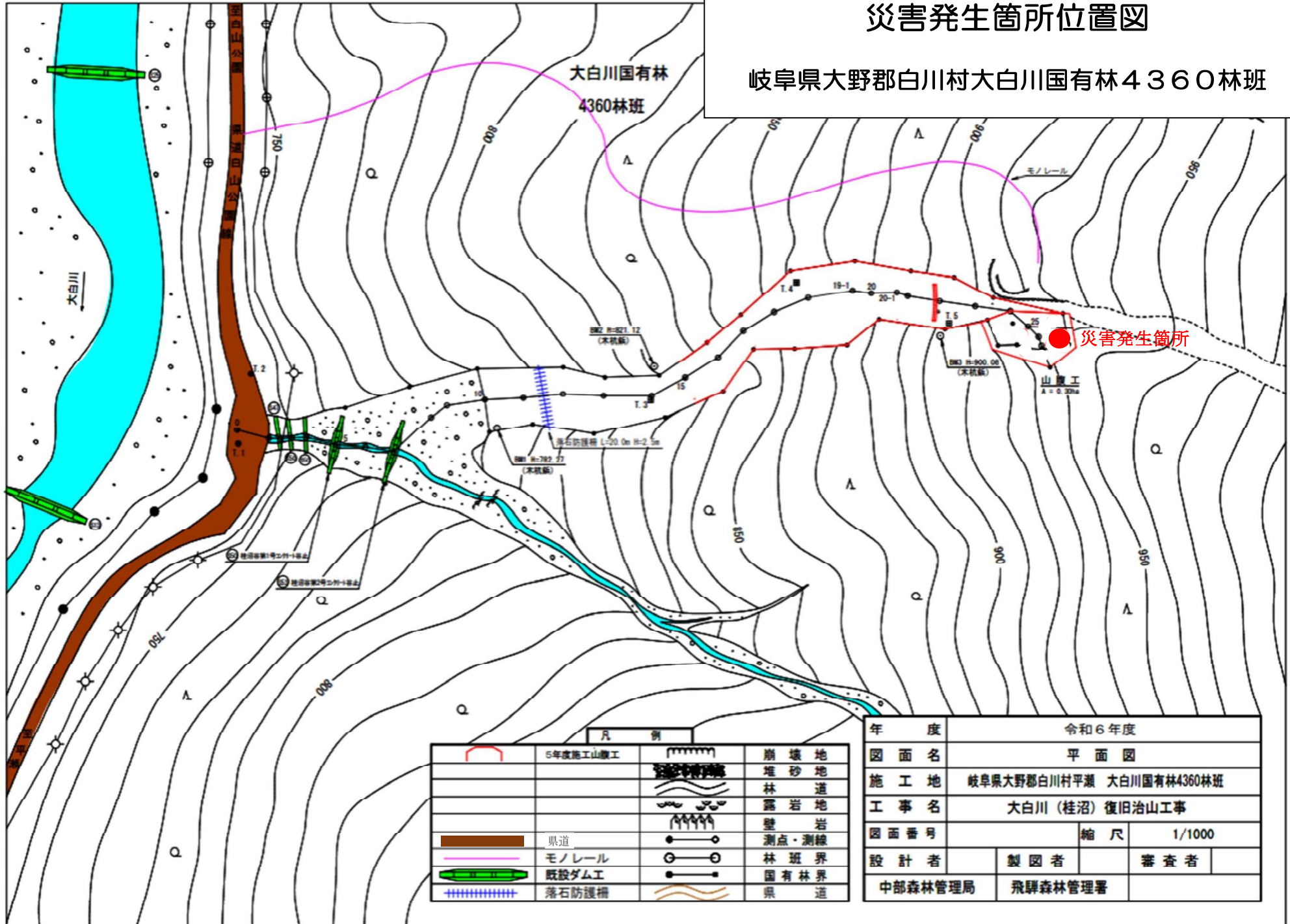
災害発生箇所位置図

岐阜県大野郡白川村大白川国有林4360林班



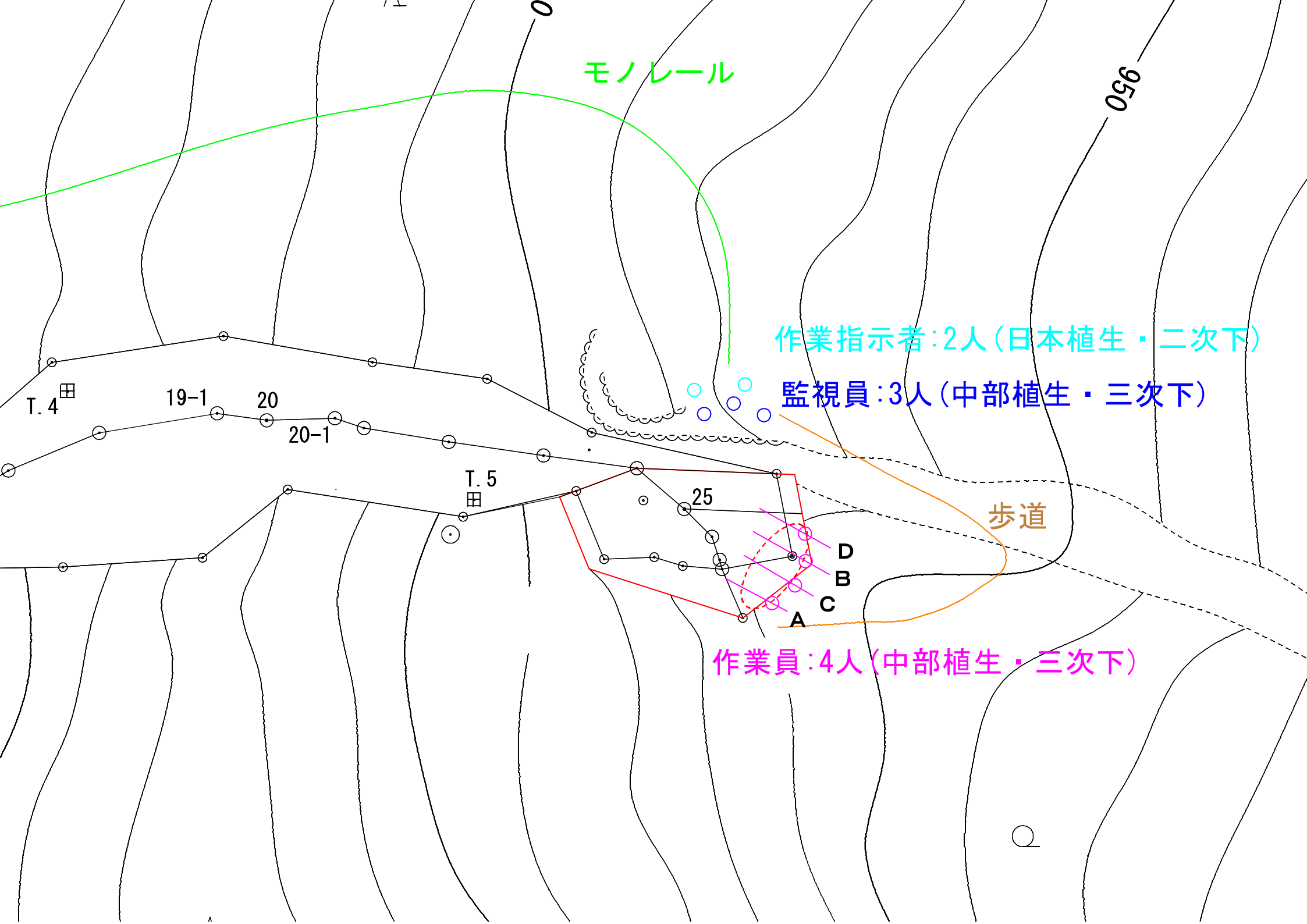
災害発生箇所位置図

岐阜県大野郡白川村大白川国有林4360林班



凡 例			
	5年度施工山腹工		崩壊地
	モノレール		堆砂地
	既設ダム工		林道
	落石防護柵		露岩地
	県道		壁岩
	モノレール		測点・測線
	既設ダム工		林班界
	落石防護柵		国有林界
	県道		県道

年 度	令和6年度		
図 面 名	平 面 図		
施 工 地	岐阜県大野郡白川村平瀬 大白川国有林4360林班		
工 事 名	大白川(桂沼)復旧治山工事		
図 面 番 号		縮 尺	1/1000
設 計 者		製 図 者	審 査 者
中部森林管理局		飛騨森林管理署	



モノレール

950

作業指示者: 2人 (日本植生・二次下)

監視員: 3人 (中部植生・三次下)

歩道

作業員: 4人 (中部植生・三次下)

T. 4

19-1

20

20-1

T. 5

25

D

B

C

A

